

# 2017年度秋学期公開科目一覧

## <追加・変更分>

### [注意事項]

#### ①曜日時限の見方

火1 → 火曜日の1時限(週1回の講義)

月1/木3 → 月曜日の1時限と木曜日の3時限(週2回の講義)

#### ②科目名が同じ科目は「学期・曜日・時限・クラス」が異なっていても授業内容が同じです。

重複して受講は出来ません。

例)「商業簿記06(春学期集中科目)」と「商業簿記07(秋学期集中科目)」

#### ③[インテ]は記載の担当教員以外に、それぞれ専門の担当者が講義をするインテグレーション科目です。

#### ④[英語による]は英語で行われる授業です。

#### ⑤担当者の○印は名誉教授、◎印は特任教員、☆印は兼任講師(非常勤講師)、◇はエクステンション・センター講師です。

#### ⑥申込者数によっては講義を開講しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

#### ⑦「社会人の科目」の“区分”はカテゴリーを指しています。語学のみ各語学(英・韓・伊・中)の表記です。

## ◆正課科目 本学学生とともに学ぶ科目

### 秋学期集中科目—秋学期に週2回講義が行われる科目

科目コード	講義名称	教員	曜時
16106 20006	商業簿記 06 <秋集> ※追加・変更	中村 恒彦	月2/木1

### 秋学期科目—秋学期に週1回講義が行われる科目

科目コード	講義名称	教員	曜時
16D01 20000	経営財務論(応用) <秋> ※追加・変更	齊藤 巡友	月3
14D50 10000	地域経済論Ⅰ <秋> ※追加・変更	角谷 嘉則	火3
14D50 20000	地域経済論Ⅱ <秋> ※追加・変更	角谷 嘉則	金1

## ◆社会人の科目 社会人聴講生の方のみが受講する科目

### 秋学期半期科目—秋学期期間に週1回講義が行われる科目

科目コード	区分	講義名称	教員名	曜・時
Z992S 90006	社	泉北の地域歴史遺産と地域史を学ぶ(秋) ※追加・変更	島田 克彦	火2
Z992H 90003	人	イギリス文化入門2(秋) ※追加・変更	◇高橋 奈穂子	水1
Z99HH 50005	人	教科書と「モノ」で学ぶ日本の近世史(秋) ※追加・変更	◇大橋 康夫	水3
Z99HH 70000	人	徳川社会と日本の近代化(秋) ※追加・変更	笠谷 和比古(本学客員教授)	金4

### 秋学期半期科目(語学科目)—秋学期期間に週1回講義が行われる科目

科目コード	区分	講義名称	教員名	曜・時
Z99LI 50012	伊	イタリア 文化とことばの旅<初級>(秋) ※追加・変更	☆牧 みぎわ	火3
Z99LI 50014	伊	イタリア 文化とことばの旅<中級>(秋) ※追加・変更	☆牧 みぎわ	木2
Z99LI 50016	伊	イタリア 文化とことばの旅<中上級>(秋) ※追加・変更	☆牧 みぎわ	木3

なお、下記の科目につきましては、非公開となりましたので、ご了承くださいますようお願い申し上げます。

講義名称	教員	曜時
国際経営論B<秋>	櫻井 結花	月4

講義名称	曜時
商業簿記 06<秋集>	月2/木1

【教員名称】中村 恒彦

【講義概要】

今日の社会において企業の影響力が増大するにつれ、人々は自己の利益を守るために企業の動向に強い関心をもち、企業に関する情報を必要としています。そのような情報は多くの源泉から入手することができますが、企業活動の経済的側面についての最も優れた情報源泉は、企業の会計が生み出す財務諸表です。しかしこの財務諸表は、簿記の知識がないと正確に読み取ることができません。簿記は、企業の財政状態や経営成績を知るうえで不可欠な知識となります。

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記について学習します。具体的には、取引の記帳から財務諸表の作成にいたるまでを、(1)複式簿記の基礎概念、(2)諸取引の会計処理、(3)決算と財務諸表、の順に解説していきます。理解をより深めるために、練習問題による演習を多く取り入れていく予定です。

【学習目標】

この講義では、日商簿記検定試験3級レベルの複式簿記についての基本構造を理解し、個人商店が行う取引を前提とした場合の記帳技術を習得することを学習の到達目標とします。

【講義計画】

- 第1回：簿記の基礎概念
- 第2回：資産・負債・純資産と貸借対照表
- 第3回：収益・費用と損益計算書
- 第4回：簿記上の取引と仕訳
- 第5回：勘定記入と転記
- 第6回：決算予備手続き(試算表の作成)
- 第7回：決算本手続き(6桁精算表の作成)
- 第8回：現金取引
- 第9回：預金取引
- 第10回：商品売買取引(三分法)
- 第11回：商品売買取引(諸掛・値引・返品)
- 第12回：債権・債務取引(その1)
- 第13回：債権・債務取引(その2)
- 第14回：手形取引(約束手形)
- 第15回：手形取引(為替手形)
- 第16回：有価証券取引
- 第17回：固定資産取引
- 第18回：資本取引と税金
- 第19回：決算整理手続き(売上原価の計算)
- 第20回：決算整理手続き(貸倒引当金の設定)
- 第21回：決算整理手続き(減価償却費の計算)
- 第22回：決算整理手続き(有価証券の時価評価その他)
- 第23回：8桁精算表の作成
- 第24回：決算本手続き(帳簿の締切りと財務諸表の作成)
- 第25回：収益と費用の見越し・繰延べ
- 第26回：消耗品の処理
- 第27回：総合問題演習(1)
- 第28回：総合問題演習(2)
- 第29回：総合問題演習(3)
- 第30回：総括

【準備学習の指示】

商業簿記を理解するためには、反復・継続的な学習が必要です。前回までの内容(講師が適宜指示)をしっかりと復習したうえで講義に出席してください。

【テキスト】

渡部裕亘・片山覚・北村敬子[編著] 978-4-502-87563-2 検定簿記講義3級 中央経済社 最新版を使用します。

渡辺正直他 978-4-407-34026-6 最新段階式日商簿記検定問題集 実教出版 練習問題として利用します。

【参考文献】

【コメント】

期末試験で評価します。

講義名称	曜時
経営財務論(応用) <秋>	月3

【教員名称】齋藤 巡友

【講義概要】

企業を経営していく上で戦略の策定は非常に重要な意思決定となる。企業経営における戦略とは、企業経営に必要な不可欠な資源である「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」の適切な使途および配分を決定することである。経営財務論では、特に「カネ」すなわち資金面の戦略に焦点を当てる。具体的には企業経営に係わる資金の流れを3つの段階に分けて考えることになる。1つ目は、「どのように資金を集めるのか」という資金調達段階である。2つ目は、「集めた資金をどのように投資するのか」という投資の段階である。3つ目は、「投資によって得られた利益をどのように処分するのか」という利益処分(利益還元)の段階である。本講義では、経営財務の基礎的な知識を前提とした上で、これらの財務的意思決定に関して現実の企業が直面している問題の本質を理解するのに役立つ概念や理論について学ぶ。

【学習目標】

経営財務に関する諸問題を理解するための知識を習得することに加え、企業を「カネ」の側面から理解するためのフレームワークの構築が本講義の目標である。

【講義計画】

- 第1回：経営財務(基礎)の主要トピックの復習
- 第2回：株式による資金調達
- 第3回：負債による資金調達
- 第4回：資本構成の理論1:MMの無関連命題
- 第5回：資本構成の理論2:トレードオフ理論、ベッキング・オーダー理論
- 第6回：日本企業の資本構成
- 第7回：利益還元政策1:MMの配当無関連命題
- 第8回：利益還元政策2:配当および自社株買回に関する代表的な理論・仮説
- 第9回：日本企業のペイアウト政策
- 第10回：コーポレート・ガバナンス1:エージェンシー問題とは
- 第11回：コーポレート・ガバナンス2:日本企業のコーポレート・ガバナンス
- 第12回：リスクマネジメント
- 第13回：デリバティブ(先物とオプション)
- 第14回：M&A(企業買収・企業合併)について
- 第15回：試験およびまとめ

【準備学習の指示】

講義前に講義資料をアップロードするので、準備学習として講義資料を読み、疑問点を整理しておくこと。復習の際は、理解出来なかった点を講義後やオフィスパワーに質問する、または参考文献の該当箇所を確認するなどして疑問点を残さないようにすること。

【テキスト】

【参考文献】

- 砂川伸幸著 『コーポレート・ファイナンス入門』 日本経済新聞社
- 高橋文郎・井出正介著 『経営財務入門 第4版』 日本経済新聞出版社
- 米澤康博・小西大・芹田敏夫著 『新しい企業金融』 有斐閣アルマ
- リチャード=ブリーリー・スチュワート=マイヤーズ・フランクリン=アレン著 『コーポレート・ファイナンス 第10版 上』 日経BP社
- 『コーポレート・ファイナンス 第10版 下』 日経BP社
- 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳 『日本企業のコーポレートファイナンス』 日本経済新聞出版社
- 砂川伸幸・川北英隆・杉浦秀徳・佐藤淑子 『経営戦略とコーポレートファイナンス』 日本経済新聞出版社

【コメント】

学期末試験および数回の小テストに基づき成績評価を行う。

講義名称	曜時
地域経済論Ⅰ <秋>	火3

【教員名称】角谷 嘉則

【講義概要】

本講義は地域経済の動態を把握するだけでなく、地域社会の問題を解決していくことも想定している。

地域経済の主体は、地域で働き、生活する上で、地域の問題に向き合わざるをえないからである。

講義は、地域経済の理論、地域問題の把握の仕方、地域開発の政策などについて、近畿圏を中心に日本全国の地域のケースを用いて進める。

【学習目標】

本講義では、都市や中山間地域など地域社会の土台をなす地域経済の構成と動態を理解するとともに、地域問題を解決するための思想と手法を獲得することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：地域問題と地域政策
- 第3回：地域経済への接近方法
- 第4回：地域経済から見た歴史①  
(第2次大戦前の日本経済と地域)
- 第5回：地域経済から見た歴史②  
(国土計画と全国総合開発計画)
- 第6回：地域経済から見た歴史③  
(都市と農山漁村の変貌)
- 第7回：地域経済と地域政策の理念①  
(内発的発展論)
- 第8回：地域経済と地域政策の理念②  
(国際化時代と地域政策)
- 第9回：地域経済と地域政策の理念③  
(自治と新しい公共)
- 第10回：地域政策の未来を読む①  
(コンパクトシティ論、シュリンク・シティ論)
- 第11回：地域政策の未来を読む②  
(創造都市論・文化資本論、クリエイティブシティ論)
- 第12回：地域政策の未来を読む③  
(アグリツーリズム、地域ブランド、買い物弱者支援)
- 第13回：地域政策の未来を読む④  
(地域再生の罫、日本の思想と実践)
- 第14回：地域政策の未来を読む⑤  
(震災復興とエネルギー)
- 第15回：まとめ

【準備学習の指示】

特に指定しない。

【テキスト】

宮本憲一・横田茂・中村剛治郎編著 4-641-08491-2 地域経済学有斐閣

【参考文献】

授業内で紹介する。

【コメント】

地域活動への参加およびレポート提出で加点する。

講義名称	曜時
地域経済論Ⅱ <秋>	金1

【教員名称】角谷 嘉則

【講義概要】

本講義は、日本国内の地域経済(狭義)だけでなく、国際社会の中の地域という視点から地域経済(広義)を把握し、地域の主体が試行錯誤しながらも活性化しようとする活動について学習していく。

特に、地域活性化と多様な主体の活動についてケースを通じて学びを深めていく。

【学習目標】

本講義では、国際社会の中で地域と地域経済の変化を把握するべく、地域産業の変化にともなう多様な主体の活動(競争と協調)、地域活性化の手法や今後の方向性について実践としても応用できるように理解することを目標とする。

【講義計画】

- 第1回：イントロダクション  
地域経済と地域社会についてのレクチャーと講義の流れを説明する。
- 第2回：地域開発①(高度経済成長期の開発)
- 第3回：地域開発②(公害などの外部不経済)
- 第4回：地域開発③(リゾート開発)
- 第5回：地域開発④(リゾート開発②)
- 第6回：地域開発⑤(サービス経済化の進展と知識産業の発展)
- 第7回：まちづくり志向①(サステナビリティ)
- 第8回：まちづくり志向②(ソーシャルキャピタルとNPO)
- 第9回：まちづくり志向③(コミュニティの体制)
- 第10回：地域活性化策①(中心市街地活性化)
- 第11回：地域活性化策②(観光集客化)
- 第12回：地域活性化策③(行事の継承とイベントの創造)
- 第13回：地域活性化策④(地域ブランド)
- 第14回：地域活性化策⑤(商人家族と家業の再構築)
- 第15回：まとめ

【準備学習の指示】

特に指示しない。

【テキスト】

角谷嘉則 978-4-7944-2316-0 株式会社黒壁の起源とまちづくりの精神 創成社

【参考文献】

授業内で紹介する。

【コメント】

地域活動への参加およびレポート提出で加点する。

# 社会人の科目

# 社会

科目名		
※履修証明プログラム対象科目 泉北の地域歴史遺産と地域史を学ぶ（秋）		
講義期間	曜日・時限	教員名
秋学期	火曜日・2限	島田 克彦 (本学経済学部准教授)

## 【講義概要】

本講座では、泉北の地域史を学びます。和泉山脈の北麓に形成された豊かな自然環境のなかで、歴史を生きた人々は村を基盤に生産・生活を営み、文化を育んできました。その痕跡は、泉北地域に豊かに残されてきた地域歴史資料や景観に息づいています。こうした資料や景観そのものが、泉北地域の歴史的なあゆみを物語る、地域の歴史遺産と呼ぶことができるでしょう。この講座では、これらを手掛かりに、地域の歴史的な形成過程をたどってみたいと思います。

※2016年度春学期の「地域の歴史文化を読み解く―泉北を中心に―（春）」とは異なる内容です。

## 【テキスト】

特になし

# 人文

科目名		
徳川社会と日本の近代化（秋）		
講義期間	曜日・時限	教員名
秋学期	金曜日・4限	笠谷 和比古 (本学客員教授)

## 【講義概要】

平成29(2017)年は幕末の大政奉還から150年目にあたります。講座では家康をはじめとする徳川幕府十五代の将軍の治世をたどるとともに、260年におよぶ徳川社会が日本の近代化にとって、どのような役割をはたしていたのか、それを政治、経済、文化そして思想の各分野に即して通観していきます。

1. 松平家の始祖伝承と徳川家康
2. 関ヶ原合戦と徳川幕府の成立
3. 大坂の陣と幕藩体制の確立
4. 秀忠政権と天皇・朝廷問題
5. 家光政権の内政と外交—鎖国と参勤交代—
6. 家綱政権と徳川社会の発展
7. 綱吉政権と元禄時代
8. 吉宗の享保改革と徳川社会の近代化Ⅰ
9. 吉宗の享保改革と徳川社会の近代化Ⅱ
10. 田沼政治の光と影
11. 松平定信と寛政の改革
12. ロシアの南下と北方領土問題
13. 幕末の国際情勢と国際条約
14. 尊王攘夷論の展開
15. 大政奉還と明治維新

## 【テキスト】

笠谷和比古『士(サムライ)の思想』ちくま学芸文庫

参考文献 笠谷和比古『徳川家康』ミネルヴァ書房、人物評伝選

# 人文

## 科目名

### 教科書と「モノ」で学ぶ日本の近世史（秋）

講義期間

曜日・時限

教員名

秋学期

水曜日・3限

大橋 康夫

(エクステンション・センター講師)

#### 【講義概要】

教科書を読みながら、あわせて「モノ教材」を見て頂き、日本の近世史の基礎を学びなおしていく講座です。パクス・トクガワーナ（徳川の平和）とも呼ばれる近世とは、日本にとってどのような時代だったのか。近世史のアウトラインをたどり、一緒に考えていきたいと思っています。

#### 【講義計画】

回	月 日	内 容	登場する主な「モノ」教材
1回	9月27日	中世史の復習	火縄銃 早合 火薬入れ
2回	10月4日	ヨーロッパ人の来航と織田信長	洛中洛外図屏風 唐獅子図屏風 堺古地図 天下布武印 天正大判 石見古丁銀
3回	10月11日	豊臣秀吉と桃山文化	難波戦記 幸村甲冑 大阪の陣図 関ヶ原の合戦図屏風 各種軍旗
4回	10月18日	江戸幕府の成立	宗門人別帳 人別送り状 鉄砲改め
5回	10月25日	大阪の陣	浅草弾左衛門書状 五人組掟 離縁状 各種武鑑
6回	11月1日	士農工商	天草軍記 島原軍談 マリア観音 踏み絵 西洋紀聞 采覧異言
7回	11月8日	鎖国への道	助郷役人馬取調帳 助郷札
8回	11月15日	文治政治	米切手 藩札 札入れ 天保通宝 丁銀 検地帳 名寄せ帳 河内国村絵図
9回	11月22日	産業の発達 1	関所手形 道中記 大日本道中細見記
10回	11月29日	産業の発達 2	好色一代男 風神雷神図屏風 農業全書 農具便利論
11回	12月6日	元禄文化	庭訓往来 商売往来 塵劫記 女大学
12回	12月13日	享保の改革と田沼時代	公事方御定書 目安箱 海国兵談 儉約令
13回	12月20日	寛政の改革と大塩平八郎の乱	北斎漫画 各種浮世絵 解体新書 エレキテル 伊能図
14回	1月10日	天保の改革と化政文化	大塩平八郎檄文 大塩三行書
15回	1月17日	新しい学問	東海道中膝栗毛 南総里見八犬伝 大坂・京都・江戸古地図 各種名所図会

#### 【テキスト】

五味文彦他編『もういちど読む 山川日本史』山川出版社 ISBN 978-4-634-59064-9

# 人文

科目名		
イギリス文化入門 2 (秋)		
講義期間	曜日・時限	教員名
秋学期	水曜日・1限	高橋 奈穂子 (エクステンション・センター講師)

## 【講義概要】

「ビートルズの国」、「王室今昔物語」、「イギリス料理は本当にまずい？」など日英の比較文化的視点から論じた400字程度の英文エッセイを読み、その理解力を深めるための練習問題を通してリーディングやライティング能力を向上させることを目的とします。また各 Lesson で取り上げられる文法項目にも丁寧に取り組み、文中における文法機能についての詳しい説明を行います。この講座を通じて、語彙力、文法力、読解力、英作力の総合的なブラッシュアップを図りつつ、異文化への理解を深めて頂ければと思います。

## 【テキスト】

Cross-Cultural Views on Britain 比較文化で考えるイギリスと日本 Richard H. Bent, Tetsuya Iseki, Reiko Iseki 著, 本体 2000円+税, 南雲堂, ISBN: 9784523177531

# 語学

## イタリア語

科目名		
イタリア 文化とことばの旅<初級> (秋)		
講義期間	曜日・時限	教員名
秋学期	火曜日・3限	牧 みぎわ (本学兼任講師)

## 【講義概要】

イタリア文化とイタリアの旅に興味のある方が対象のクラスです。豊かな歴史と文化の国イタリアは、日本人が最も愛する欧州の国といわれます。20州それぞれに個性あふれるみどころ、歳時記、食や習慣のお話から、テレビやインターネットでも知りえない現代最新事情まで幅広くご紹介し、様々な側面からイタリアの魅力に迫ります。また、旅に役立つイタリア語会話も身につけていただきます。本講座の語学のコーナーは、初歩のイタリア語文法を学習したことのある方向けです。

初心者の方でも事前補習と課題をこなしていただければご参加可能です(希望される方はエクステンション・センターまでお問い合わせください)。文化から、そして言語からも、魅惑のイタリアに近づいて参りましょう。 \*このクラスは春学期(初級)からの継続クラスです。

## 【テキスト】

「Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら」遠藤礼子著 ISBN978-4-560-01762-3 白水社 第5課～



科目名		
イタリア 文化とことばの旅<中級> (秋)		
講義期間	曜日・時限	教員名
秋学期	木曜日・2限	牧 みぎわ (本学兼任講師)

#### 【講義概要】

イタリア文化とイタリアの旅に興味のある方が対象のクラスです。豊かな歴史と文化の国イタリアは、日本人が最も愛する欧州の国といわれます。20州それぞれに個性あふれるみどころ、歳時記、食や習慣のお話から、テレビやインターネットでも知りえない現代最新事情まで幅広くご紹介し、様々な側面からイタリアの魅力に迫ります。また、旅に役立つイタリア語会話も身につけていただきます。基本のイタリア語文法（近過去形あたりまで）学習したことのある方が対象です。文化から、そして言語からも、魅惑のイタリアに近づいて参りましょう。

\*このクラスは春学期(中級)からの継続クラスです。

#### 【テキスト】

Nuovo Progetto italiano 1 - Libro dello studente (+ DVD Video) (講師手配・クラス内で告知します) (第3課～) ISBN 978-960-6632-24-2

科目名		
イタリア 文化とことばの旅<中上級> (秋)		
講義期間	曜日・時限	教員名
秋学期	木曜日・3限	牧 みぎわ (本学兼任講師)

#### 【講義概要】

魅力溢れるイタリア文化に魅せられた皆様に、更に深くイタリアを知るためのキーワードを、時にイタリア語も交えつつ、ご紹介して参ります。テーマは20州の都市紹介、旅に役立つ情報を中心に、歴史、歳時記、芸術、食文化、新聞やインターネットでも知り得ない時事や最新事情まで、バラエティ豊かに取り上げます。イタリア語のレッスンでは、基本文法の学習経験がある方を対象に（近・半過去・未来形までは必須）、旅や生活に応用可能な表現を使った会話練習、イタリア語ならではの表現などにも触れながら、更なるコミュニケーション力アップを目指します。魅惑のイタリアに、ますます近づいて参りましょう。

\*このクラスは春学期(中上級)からの継続クラスとなります。

#### 【テキスト】

Nuovo Progetto italiano 1 - Libro dello studente (+ DVD Video)後半とプリント使用  
ISBN 978-960-6632-24-2